

酒類の飲酒動機について

情報技術支援部門 宇都宮 仁

1. はじめに

日本における総アルコール消費量は飽和状態であり、焼酎やリキュール類が増加する一方、清酒、ビール及びウイスキーの消費は逡減している。しかし、このような中でも、これらの酒類を新たに飲み始めた人など飲酒回数や量を増やした人がある。その動機を調査することで、今後の消費動向を予測し消費回復につながるヒントが得られるのではないかと考え調査を実施した。

調査は、インターネットを利用して2段階で行い、第1ステップでこの1年間にこれら酒類の飲酒回数や量が増加した対象者を抽出し、第2ステップでその理由などについて調査を行った(表)。なお、飲酒回数や量が増加した理由及び飲みたくなるシーンについては、「回答者の本音」を把握するため自由記述とし、回答文章から解析を行った。

表 回答者数及び主な質問項目

	第1ステップ	第2ステップ
回答者数(人)	55,392 内1ヶ月以内に飲酒経験あり 38,433	清酒:1,128、ビール:1,038 ウイスキー:917
主な質問項目	<ul style="list-style-type: none">・ 普段よく飲む酒類・ 飲酒回数や量が増加した酒類・減少した酒類	<ul style="list-style-type: none">・ 飲酒頻度及び量・ 飲み方(例 冷酒、お燗等)・ 飲む場所・ 1年前に比べて増加したタイプ・ 回数や量の増加理由(自由記述)・ 飲みたくなるシーン(自由記述)

(注)ウイスキー以外の男女比は同じ、世代比(20代、30代、40代、50歳以上)も同じとした

2. 飲酒回数や量が増加した酒類・減少した酒類は？

自宅と自宅外のどちらかで飲酒回数や量が増加した酒類(複数回答)は、ビール、発泡酒・新ジャンル、焼酎という人が各20%を超えており、清酒は11.1%、ウイスキーは3.9%であった。

また、ビール、酎ハイ・サワー、カクテルが増加した人は20代が多く年齢の上昇とともに少なくなる傾向が見られた。

一方、飲酒回数や量が減少した酒類(複数回答)は、年齢の上昇とともに、ビール、清酒、ウイスキーが減少したという人が増え、これらの酒類消費の減少に中高年齢層が大きく関与していることが推定された。

3. 清酒、ビール、ウイスキーの飲酒回数や量が増加した動機は？

(1) 清酒

最も頻度の高かった理由は、官能的要因の「おいしい」であった。他の理由と比較しても飛び抜けて頻度が高く、かつ全年齢層で高い頻度であった。清酒のおいしさは、「おいしく感じるようになった」といった嗜好変化や「知る・わかる・目覚める・出会う」など、清酒を飲んでみて知ったことが推定された。

次に、頻度の高かった理由は「料理・食事にあう」特に「和食・日本料理」であった。この「料理・

食事」に関する回答頻度は、ビール、ウイスキーと比較して極めて高く、清酒の飲酒動機を特徴付ける大きな理由であり、中高年齢層に多い傾向がみられた。

(2) ビール

最も頻度の高かった理由は、「特にない・なんとなく」であった。第2位「機会の増加」、第4位「仕事・つきあい・会合」と合わせて考えると、飲酒機会の増加とビールの飲酒回数や量は高い相関関係にあることが推定された。なお、官能的要因の「おいしい」は第3位であった。

ビールに特徴的な理由としては、「ストレス・疲れ・癒やし・気分転換」が今回調査した酒類中で最も高い頻度でみられた。また、「プレミアム」、「新製品・アイテムの増加」、「おいしいビールが増えた」など商品特性に関連した理由が多く、ビール各社がプレミアム製品や新製品を積極的に市場に送り出していることが、飲酒動機になっていることがうかがえた。

(3) ウイスキー

最も頻度の高かった理由は、官能的要因の「おいしい」であった。ウイスキーのおいしさも、「おいしく感じられるようになった」といった嗜好変化や「知る・わかる・目覚める・出会う」など、ウイスキーを飲んでみて知ったことが推定された。

ウイスキーに特徴的な理由としては、「バー・スナック・クラブ」などの料飲店によるものや、「睡眠・寝酒」、「酔いやすい」という生理的要因がみられた。また、商品特性に関連した理由では、「経済的・安い・手頃」、「シングルモルト」が多くみられた。

4. 清酒、ビール、ウイスキーが飲みたくなるシーンは？

「テレビ・映画・ビデオ」、「音楽」などゆっくり楽しむ趣味ではウイスキーが支持された。

一緒に飲む人間関係では、清酒は「家族・夫婦・子供」と、ビールは「友人・仲間」と、ウイスキーは「一人」でそれぞれに特徴がみられた。

「のど・渇き・汗」、「風呂・シャワー」、「スポーツ」、「暑い・夏」においてはビールが圧倒的に支持され、「寒い・冬」には清酒、「睡眠・寝酒」にはウイスキーが支持された。

「ストレス・疲れ・リフレッシュ」においては、ビール、ウイスキー、清酒の順であるが、「リラックス・ゆったり・くつろぐ」にはウイスキーや清酒の方が支持された。

また、「食事・ご飯・夕食」時には、どの酒類も飲みたくなるが、和食の際に清酒が飲みたくなるという人が 12.7%と極めて高い比率であった。

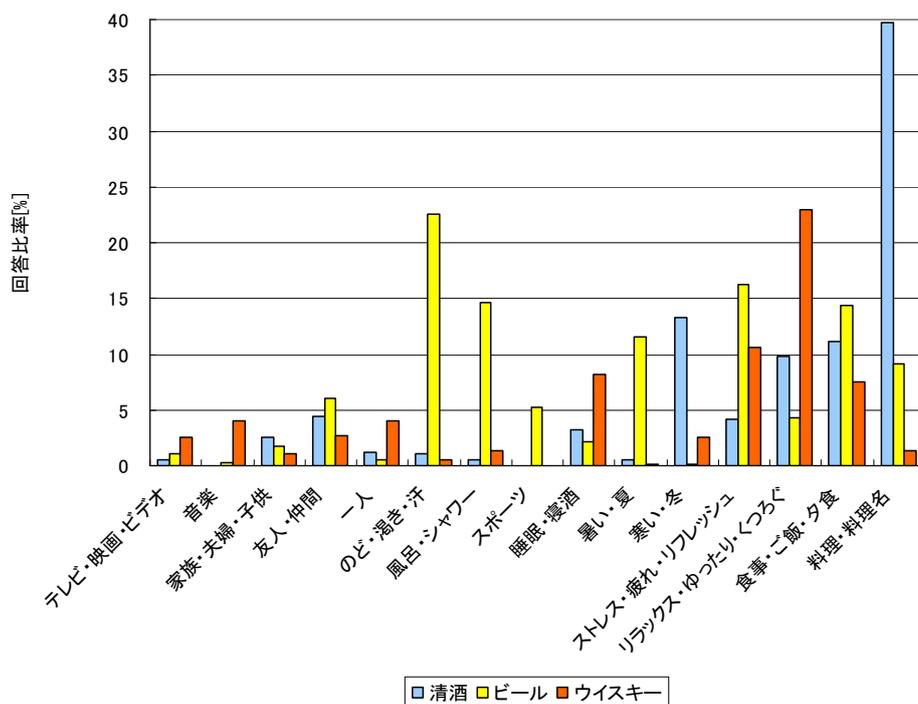


図 清酒、ビール、ウイスキーが飲みたくなるシーン(複数回答)